

脳卒中のあれこれ



医仁会武田総合病院
脳神経外科

部長
川西昌浩

ガン、心臓疾患、 そして脳卒中

今回から3回にわたり、脳卒中の症状とその治療法についてお話ししたいと思います。脳卒中は脳血管疾患の総称で、くも膜下出血と脳内出血、脳梗塞に大きく分けられます。脳内出血や脳梗塞は高血圧や動脈硬化が主要原因の生活習慣病で、脳卒中全体としてガン、心臓疾患について我が国の死因の第3位を占めています。発症年齢も若年化が進み、いまでは30代でかかる例も珍しくありません。しかしその一方で、脳卒中の治療法はここ10数年のあいだに急速な進歩を遂げているのです。

くも膜下出血の患者さんが 歩いて病院に

くも膜下出血は、脳の表面を覆うくも膜の下を走る動脈の一部が瘤のようになり（いわゆる動脈瘤）、それが破裂・出血することで脳にダメージを与える疾患です。発症時の痛みは後頭

部をハンマーで殴られたよう
例えられるほど激しく、最悪の

場合は死につながることもあり
ます。けれども、かならずしも
激痛に襲われるわけではありません。
せん。私自身20年以上脳外科の
診療に携わってきて、普通に歩
いてこられた患者さんをCT検
査したところ、実はくも膜下出
血だったということが何度もあ
りました。なので激しい頭痛で
はなくても、いまままでに感じた
ことのない痛みが突然起きたと
きは注意が必要です。「何時何
分何秒」に突然起こったとい
う点がポイントです。このよう
なときは、できるだけ早く専門医
を訪れてください。再破裂は発
症24時間以内に多く起こります。
早期検査と適切な治療によりそ
れを防ぐことができれば、後遺
症もなく、社会復帰も可能なの
が他の脳卒中と異なる点です。



患者さんに優しい コイル塞栓術

くも膜下出血の治療法には2
種類があります。1つは手術で
頭を開き、金属製のクリップで
瘤と正常な血管との境目を閉じ、
血液がふたたび瘤へ流れるのを
防ぐクリッピング術。もう1つ
は太ももの動脈から挿入した細
い管状のカテーテルを利用し、
血管内で治療を行なうコイル塞
栓術。カテーテル内に極細のプ
ラチナ製コイルを通し、それを
瘤のなかで毛糸のたまのように
グルグル巻きにして血液の再流
入を防ぐという治療法です。外
科手術であるクリッピング術よ
り患者さんへの負担が少なく、
比較試験でも良好な治療結果が
証明され、1990年代の登壇
以来、世界で12万例以上の治療
が行なわれています。当院でも
導入してから10年近くになりま
すが、治療後の長期成績も安定
していて、多くの方が社会復帰
されています。